

みんな知ってる？ 家族で働く農家の働き方のルール

# 家族経営協定が、働き方を変える！

青森県は、全国有数の農業県であり、多くの家族経営が本県農業を支えています。農業といえば、田舎の風習やしきたりのなか、嫁いできた女性が苦労しているようなイメージ……しかし、最近は家族内で働き方などの取り決めを行うことで、農業に従事する家族全員が自分らしく働くことができているようです。農業分野における女性の活躍について、制度や働き方から考えてみます。

## 男女共同参画の視点からみる 農業女性の現状と課題

農業分野の就労人口は、全国的にも青森県においても減少傾向にあります。しかし、基幹的農業従事者における女性の割合は、青森県では46・7%（平成27年）で、全国平均（42・7%）よりも高い数値となっております。その役割は大きいと言えます。

しかし、これまでは、夫婦がともに農業に従事していても、夫のみ収入が入り、妻の労働に対してはそれに見合う十分な報酬が得られないなどの課題がありました。そこで国では、家族員相互間のルールづくりとして、平成7年から「家族経営協定」を推進しています。県内においても広まってきており、協定の締結によって、女性の農業経営への参画が明文化されることで、労働環境の改善につながっています。また、直売所などでの販売によって、現金収入も得られるようになってきました。

## 女性就農による発展性

女性が農業に関わり、現金を手にする、通帳を持つことによって、よりイキイキと、自分らしく働けるようになったことは言うまでもありません。また、作った野菜をそのまま販売するのではなく、加工し、付加価値を付けて販売することができます。直売所などの増加に伴い、女性が加工品を販売し収入を得る農家も増えました。

一般企業での勤務と異なり、農家は個人事業主。農産物の加工・直売・農家レストラン・体験受け入れなど、消費者と近い距離でのサービスは、生活者の視点を活かしやすい分野でもあります。県内の農山漁村女性による起業数は、平成28年3月末で371件となっており、6次産業の分野で活躍する女性はますます増えていでしょう。このような動きに対し、青森県でも支援やネットワーク形成のための取り組みを進めています。

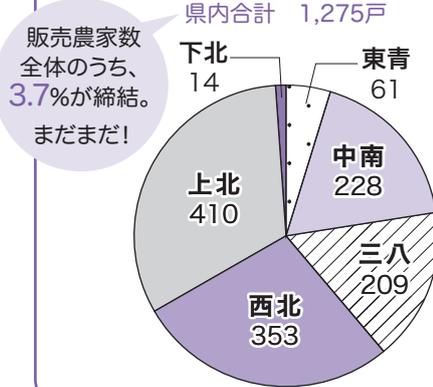
## 家族経営協定の取り決め内容 (平成27年度 農林水産省調べ)

\*平成27年度中に新規締結、又は見直し等により再締結した962戸の協定の取り決め内容を調査（複数回答）

農業経営の方針決定	88.6%
労働時間・休日	86.2%
農業面の役割分担（作業分担、簿記帳など）	80.0%
労働報酬（日給・月給）	71.2%
収益の配分（日給・月給以外の利益の分配）	61.2%
経営移譲（継承を含む）	50.9%
生活面での役割分担（家事・育児・介護）	43.9%

協定締結のために生活スタイルについても話し合っている！

## 地域別家族経営協定締結農家数 (平成28年3月末現在 青森県農林水産政策課調べ)



## 家族経営協定とは

家族経営協定とは、家族で取り組む農業経営について、経営の方針や家族一人ひとりの役割、就業条件・就業環境について家族みんなで話し合いながら取り決めします。個性と能力を認め合い、対等なパートナーとして、農業を営むために結びます。

家族経営協定の締結数は年々増加しており、青森県における家族経営協定締結農家数は平成28年3月末で1,275戸、販売農家数に占める割合は約3・7%となっております。

取り決めの内容は、それぞれの家族によって千差万別です。農業経営の方針や役割分担、報酬に関わることだけでなく、「生活面での役割分担（家事、育児、介護）」も含まれることが、ワーク・ライフ・バランスの推進にもつながっています。生活面での役割分担を、農業経営と同様にとり位置づけられるという点で、価値のある取り組みだと言えます。

家族経営協定の締結にあたって、専門知識を持った第三者からの助言を受けることができます。詳しくは最寄りの農業委員会、農業普及振興室へお問い合わせください。

# 農業分野で活躍する家族 家族経営協定で、家族みんなハッピー！



**◆締結のきっかけ**  
 農家である重徳さんの両親と重徳さんが、もともと家族経営協定を結んでいました。その協定内容を、経営移譲、結婚、妻の出産を機に見直しました。我が家のライフプランを作成する上で、仕事と生活のバランス（ワーク・ライフ・バランス）をとりながら経営を進めていくには、妻や家族の協力や理解が必要不可欠であることを認識していたので、農業面と生活面に関する約束事を取り決めるのに口約束ではなく書面で締結することにしました。また、家族経営協定の締結により、農業者年金の国庫助成を活用できたこともあり、協定締結の後押しとなりました。

青森県八戸市で農業を営み、輪菊、小松菜を栽培する石上重徳さん、菜穂美さんに、家族経営協定についてお話を伺いました。



◀菜穂美さんは現在2人目を妊娠中。妊娠期間も協定で取り決めたルールを使って、家族で支えています。



▲石上重徳さん、菜穂美さんご夫妻

**◆締結の効果**  
 家族と過ごす時間を増やすため、作業効率を考えた農作業計画を立てて実践するようになりました。また、役割分担のなかに家事育児の補助や、就業条件に産前産後育児休暇取得を取り決めたことにより、夫婦ともに子どもと接する時間が増え、子どもの成長を間近で感じることでできています。家事や育児等への従事時間も農作業と同様に労働時間とみなしたことで、家族全員で一緒に働いているという一体感が生まれました。  
 家族経営協定の締結を機会に経営を見直すことができ、5年後、10年後の近い将来から定年後の夢などについても話し合うことができました。目標達成に向け、お互いが協力しながら進んでいけそうです。

## 青森県農林水産政策課の取り組み事業

青森県では、農山漁村における男女共同参画社会の推進に向け、女性の経営参画や女性リーダーの育成等を推進しています！

### ◆農山漁村女性起業チャレンジ支援事業

本格的な起業を目指す農山漁村女性に対して新商品開発や機器整備を支援するほか、事業拡大を目指す女性起業のフォローアップなどにより、地域の活性化を図ります。

### ◆未来につなぐ青森農業普及活動推進事業

経営管理、技術習得、先進事例紹介など女性の経営参画に向けたセミナー、女性が地域における方針決定に参画する上で必要な能力を開発するための研修会、次世代リーダー育成のための情報交換会等を開催しています。

詳しくは、青森県農林水産部農林水産政策課までお問い合わせください。

TEL : 017-734-9473

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/hourin/nosui/>

(取材協力: 青森県農林水産部 農林水産政策課農業改良普及グループ)

## 農業分野で広がる女性のネットワーク

青森県では、特色ある地域農林水産業の推進や住みよい社会づくりに取り組み、優れた地域活動の実績を持つ農山漁村女性リーダーを「ViC・ウーマン」として認定し、地域農林水産業の振興や農山漁村の活性化の推進役を担ってもらっています。

現在、県内各地に363名のリーダーが多面で活躍しており、最近では若手女性農業者のネットワークづくりも進められています。



▲先進事例視察研修で宮城県に行った「ViC・ウーマン」のみなさん。(平成28年7月)

特別寄稿

# 農業女性が 青森の活力の源に

北村 真夕美 さん

- Profile -

株式会社青森経営研究所 代表取締役。青森県男女共同参画推進協議会 会長。  
内閣府 男女共同参画推進連携会議 有識者議員。  
平成10年から4年間、陸奥新報 文化欄に青森県の輝く農業女性について連載。  
それをまとめ、「あなたがいるから」を刊行（平成18年）。



学び、気づくことで  
「農業」がやりがいある仕事に

青森県の「農業」は今や『女性の力』が「頼みの綱」と言える。

食料を司る重要な産業である「農業」は、高齢化、後継者不足と、厳しい課題を抱える。そんな中で、ひときわ明るい光を放つのは女性たちの活躍である。

少し前の農業女性は、企業戦士ならぬ農業戦士、失礼ながら単なる労働力という位置づけが強かったように思える。が、そのような位置づけに、女性たちがいつまでも疑問を持たぬはずがない。

ちょうど、国をはじめとする行政機関による農業女性への支援体制がすすみはじめ、加えて、地方にも地域間交流を支える交通ネットワークの整備が推進し、それらが追い風となつて「学習」や「研修」の場がひらけていく。

先進地を見て回り、首都圏の店頭を見てまわつて、消費者との交流も活性化する。ヨーロッパの農業、農村の視察も叶うようになっていく。

比較は思考を刺激する。賢い女性た

ちは大いなる「気付き」や「ひらめき」を手にする事となる。

「農業」はビジネス。創意・工夫を忘れずに「やりがいある仕事」として育てていきたい。「農業」を農業していくためにだけでなく「人生」を「ゆたかに」「楽しく」築き上げていくために、誇りを持って取り組んでいきたいと、女性たちの誰もが語る。

こんな「志」を胸に秘めて、女性たちは動き出したのである。

## 農業女性が

### 地域を明るくする存在に

今、農産物の直売所は、どこも活況を呈している。苦心惨憺確立した、有機や低農薬での栽培技術によるこだわり生産品は、顧客との契約販売だ。I Tを駆使して、全国への販売網を広げる女性も少なくない。

女性たちは実にパワフルだ。良き伴侶を誉めて・励まし、強力なパートナーとして、家事・育児、生産現場や販売に事務処理、経理と八面六臂の働きぶりである。むろん、地域活動にも率先して参画する。

よく見ると、そんな農業女性たちの

暮らす地域は明るい。高齢者たちも触発されて、元気だ。そこでは地域活性化への胎動が、さまざまなカタチで始まっている。

## 青森の「頼みの綱」は 誇りを持って働く農業女性

「任んでも・働いても幸福」は、地域づくりがめざすテーマと考える。働く人々が誇りや生きがいを持つて、生き生きと楽しそうに暮らす地域は、「行ってみたい」・「任んでみたい」・「帰りたい」地域としてアピールするのだから、地域づくりの原点なのである。

女性の力は、あなごれない。

やる気に溢れ、向上心旺盛な農業女性たちを、もつともつと見出し出して、スポットライトを当てていきたいものだ。「農業を経営する」素敵な女性たちに、声援を送り続けていきたい。青森に共に生きる者として、切磋琢磨、お互いの力をたくさん束ねていきたいと願っている。

やがては、さらに逞しい「頼みの綱」となつて、青森の活力の源となつていくに違いないのだから。